

## 廃棄物運搬用パイプライン施設の今後のあり方に係る市民意見募集の実施結果について（概要）

※取扱区分 A：意見を反映 0件 B：実施にあたり考慮 0件 C：原案に考慮済み 43件 D：説明・回答 80件 提出件数 60人69件 意見の件数 123件

概 要	取扱 区分	市 の 考 え 方
<b>1. パイプライン施設の運用年数について 【44件】</b>		
(1) 市の考え方は理解できる。(11件) ・ 芦屋浜20年，南芦屋浜32年の運用年数は賛成。 それまで適切に維持管理してほしい。	C	芦屋浜地域は15年，南芦屋浜地域は30年経過した時期から運用年数（芦屋浜地域は20年南芦屋浜地域は32年）までに，順次代替収集へ変更できるよう，適切な維持管理に努めてまいります。
(2) 納得はできないが，困難な状況も理解できる。(17件) ・ 前もって保全修理して多額の費用が急にかかる事態を回避できたと考えるが，市の財政状況を考えると急に多額の費用を拠出するのが困難なことも理解できる。	D	設備の保全に努めてまいりましたが，供用開始から約39年経過し，輸送管等の老朽化が深刻であり改修等に多額な経費がかかることから施設を運用し続けることは困難と考え施設の運用年数を定め，大規模改修や施設更新などは行わず，補修等で運用し，運用経費についてもさらなる経費削減に努めることとしました。
(3) 継続利用を希望する。(15件) ・ 最先端のゴミ収集システムであるので継続してほしい。 ・ 清潔な街のために継続してほしい。	D	パイプライン施設の輸送管等の老朽化が深刻であり改修等に多額な経費がかかることから施設を運用し続けることは困難と考え，施設の運用年数を定め，大規模改修や施設更新などは行わず，補修等で運用し，運用経費についてもさらなる経費削減に努めることとしました。この取り組みを契機として，環境にやさしい清潔な街づくりを進める対策を検討します。
(4) 即時停止を希望する。(1件) ・ 一部地域だけの公共サービスで非効率が見られるので即時停止を求める。	D	パイプライン施設の導入の経緯・経過からソフトランディングの観点も考慮し，一定の運用年数を定めるなど，今般の廃棄物運搬用パイプライン施設の今後のあり方についての取り組みに沿って進めてまいります。
<b>2. パイプライン施設の廃止後の代替収集方法について 【37件】</b>		
(1) 様々な代替収集方法を検討してほしい。(26件)	C	パッカー車による車両収集とし，ごみの集積方法につきましては技術革新や住宅形態を鑑み，合理的な収集方法の検討を続けてまいります。
(2) 市の考えている代替収集方法には反対。(11件)	D	パッカー車による車両収集とし，ごみの集積方法につきましては技術革新や住宅形態を鑑み，合理的な収集方法の検討を続けてまいります。

概要	取扱区分	市の考え方
<b>3. パイプライン施設非利用地域のサービス向上について 【20件】</b>		
(1) 代替収集方法を全市に拡大してほしい。(13件)	D	パイプライン地域以外に関するご意見につきましては、本市の環境行政や廃棄物行政全般の課題と考えております。
(2) 非利用地域の収集回数を3回/週以上に(4件)	D	パイプライン地域以外に関するご意見につきましては、本市の環境行政や廃棄物行政全般の課題と考えております。
(3) パイプライン施設を全市に拡大してほしい。(3件)	D	パイプライン施設の他地域への導入は考えておりません。
<b>4. 市の進め方について 【12件】</b>		
(1) 導入当時の市の考え方について(6件) ・パイプライン施設が魅力でこの街に住んだのに財政的に困難で廃止は納得がいかない。 ・パイプライン施設のメンテナンス費用を設置時に考慮していなかったのか?	D	公共施設等は社会情勢の変化に伴い、そのあり方の検討や見直しを図らなければなりません。パイプライン施設も同様であり、このたび経費の面等から運用し続けることは困難と判断し、施設の運用年数を定めることとしました。
(2) 維持管理経費の削減について(5件) ・市職員、維持管理業者も視点を変えて削減に取り組むべきである。	C	維持管理費用を削減するため、市、利用者の皆様、維持管理業者が様々な視点で協議し適切な維持管理を行ってまいります。
(3) パイプライン施設の課題解決手法について(1件) ・パイプライン施設のあり方については利用住民の納得を得ながら進めていってほしい。	C	利用者の皆様の納得が得られるように丁寧に進めてまいります。
<b>5. その他 【10件】</b>		
<p data-bbox="1384 1086 2096 1118">※取扱区分はD、市の考え方については、次頁以降に記載。</p> <ul data-bbox="125 1134 2096 1453" style="list-style-type: none"> <li>・パイプライン施設利用者のマナー向上について(4件)</li> <li>・都市ごみと地上電柱の撤廃を同時解決する共同溝化に取り組み、共同溝にパイプラインを新設してほしい。</li> <li>・収集作業員の安全確保について。</li> <li>・シーサイドだけ利便性が高く不公平と言うなら、山手地域のごみをシーサイドに持ってくるのはやめ、山手地域に焼却炉を建設し処理するべきだ。</li> <li>・市民意識の向上政策として、ゴミ問題を含めた総合都市環境対策を進めてほしい。</li> <li>・廃止したパイプライン施設の輸送管を利用して、無電柱化を進めるべきだ。</li> <li>・プラスチックの分別をしてほしい。</li> </ul>		

## 廃棄物運搬用パイプライン施設の今後のあり方に係る市民意見募集の実施結果について（詳細）

1 募集期間：平成30年8月15日～平成30年9月14日

2 提出件数：60人69件

NO	市民からの意見	市の考え方
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パイプラインを今後とも利用したいが、費用の点を考えると永遠に使い続けることは難しいと理解している。そこで、今後10年ではパイプラインが終わるのは納得できないが、芦屋浜は後20年間、南芦屋浜は32年間は継続して利用していきたい。</li> <li>・パイプライン施設の代替案としては、住居形態（高層・中層・タウンハウス・戸建て）や他都市の状況を考慮して検討してもらいたい。</li> <li>・パイプライン廃止に伴うデメリットをできるだけ少なくするために、ソフトランディングという視点で、代替案の費用は市の負担、ごみの回収回数は最初は週5回でお願いしたい。</li> <li>・パイプライン非利用者のごみに関するサービスレベルも現在の週2回以上の回収、ごみ集積施設の設置など検討を今後おこない、芦屋市全体のごみに関するサービスレベルを向上してもらいたい。</li> </ul>	<p>パイプライン施設については、芦屋浜地域は15年、南芦屋浜地域は30年経過した時期から運用年数（芦屋浜地域は20年、南芦屋浜地域は32年）までに、順次代替収集へ変更していけるよう適切な維持管理に努めてまいります。その他、頂いたご意見につきましては、利用者の皆様と協働して取り組んでまいります。なお、パイプライン地域以外に関するご意見につきましては本市の環境行政や廃棄物行政全般の課題と考えております。</p>
2	<p>パイプラインの運用年数（案）については、賛成いたします。両地域とも限度いっぱいまでの運用を期待します。パイプラインによる生ごみ等の処理により清潔な生活環境が保たれており、豊かな自然環境とともにこの地域に住んで良かったと思っています。</p> <p>維持管理には多額の費用と多大な労力を必要とされると思いますが、快適な環境を可能な限り維持してほしいものです。</p>	<p>パイプライン施設については、芦屋浜地域は15年、南芦屋浜地域は30年経過した時期から運用年数（芦屋浜地域は20年、南芦屋浜地域は32年）までに、順次代替収集へ変更していけるよう適切な維持管理に努めてまいります。</p>
3	<p>今回の芦屋市のパイプライン施設の今後のあり方についての方針は全て賛成です。市のご担当部門の方々と市民との協業の賜物が「今後のパイプライン施設に関する提案」に集約されていると思います。同様の施設を保有している他市の参考にもなっております。</p> <p>他市比較でも歳出の中のゴミ経費は3～4%のレンジであり、芦屋が特に高いとは感じません。また、非パイプライン地域の収集回数も震災前の3回（現行2回/週）に戻すべきで、財源は電線地中化プロジェクトを止め、それにあてる様に検討して頂きたいです。（南海トラフの確率が上がっているのに地中化プロジェクトをする意味が理解できません）</p>	<p>頂いたご意見につきましては、利用者の皆様と協働して取り組んでまいります。なお、パイプライン地域以外に関するご意見につきましては本市の環境行政や廃棄物行政全般の課題と考えております。</p>

4	<p>私は昭和 57 年に芦屋浜の現住宅を購入いたしました。当時、住宅公団や兵庫県住宅供給公社など売る側は「真空ごみ収集システムを採用した清潔な未来を先取りした街である」事を宣伝しておりました。私もこの宣伝に乗って今の住宅を選びました。</p> <p>40 年近くの時が経ち、設備老朽化による更新費用の増加と維持管理費の高騰などから、真空ごみ収集パイプライン施設（以降、パイプラインと略す）の廃止が議論されている事は残念でなりません。宣伝通り、パイプラインがあったことが大きいと思っています。この点を、パイプラインを利用していない区域の市民の方々には何卒御理解を頂きたいと思います。</p> <p>とは言いながら、「多額な費用を費やしながらパイプラインを永続利用することには問題があるだろう」事を利用者の方も考える様になって来たと思っております。芦屋市環境施設課とパイプライン利用者達が知恵を出し合い協議を重ねてきましたが、一定の成果が出てまいりました。縦覧用資料「廃棄物運搬用パイプライン施設の今後のあり方について」に市がまとめられたものに概ね沿っております。その中で私が協調したい事項は下記の点です。</p> <p>1 芦屋浜は今後 20 年間、南芦屋浜は今後 32 年間、パイプラインを継続利用させていただきたい。</p> <p>2 パイプライン廃止後の代替施設は住宅形態・国内国外状況などを考慮して検討願いたい。</p> <p>3 代替施設へのゴミ回収はソフトランディングの視点から当初は最大週 5 回にして頂きたい。</p> <p>また、縦覧資料には記載ありませんでしたが、下記も市にお願いしたいと思います。</p> <p>1 代替施設の検討の成果は可能な限りパイプライン非利用の区域にも展開をお願いしたい。</p>	<p>パイプライン施設については、芦屋浜地域は 15 年、南芦屋浜地域は 30 年経過した時期から運用年数（芦屋浜地域は 20 年、南芦屋浜地域は 32 年）までに、順次代替収集へ変更していけるよう適切な維持管理に努めてまいります。その他、頂いたご意見につきましては、利用者の皆様と協働して取り組んでまいります。なお、パイプライン地域以外に関するご意見につきましては本市の環境行政や廃棄物行政全般の課題と考えております。</p>
5	<p>パイプラインは未来都市シーサイドタウンの大きな魅力の一つです。パイプラインに魅かれ入居を決めたものとしてパイプラインの存続を希望いたします。芦屋浜で 20 年間南芦屋浜では 30 年間は継続して利用していきたいと思っております。なお、パイプライン非利用者のサービスレベルも向上してもらいたい。</p>	<p>パイプライン施設については、芦屋浜地域は 15 年、南芦屋浜地域は 30 年経過した時期から運用年数（芦屋浜地域は 20 年、南芦屋浜地域は 32 年）までに、順次代替収集へ変更していけるよう適切な維持管理に努めてまいります。なお、パイプライン地域以外に関するご意見につきましては本市の環境行政や廃棄物行政全般の課題と考えております。</p>
6	<p>1, ごみ収集パイプラインの設備更新について</p> <p>現在の設備を一部活用してごみ収集をすることへの変更へ賛同いたします。今の空気輸送は止め、ごみを投入箱（現在地に新設）に留置しておき、それを収集車が定期的に回収する方法を検討ください。住民にとっては大きな日常生活の変更とならず、ごみの分別という別の課題へ</p>	<p>代替収集方法は、パッカー車による車両収集とし、ごみの集積方法につきましては、技術革新や住宅形態等を鑑み、合理的な収集方法の検討を続けてまいります。</p> <p>パイプライン施設の導入理由は、当時の社会情勢である高度経済成長</p>

	<p>も対応できると思います。</p> <p>2、「ごみ収集」は都市生活者の（長く続く）課題となっております。</p> <p>（1）未来志向的な「搬送パイプライン設備」について、芦屋市は失政であることを反省し、市議会と市民で問題点をまとめ潰しておくことを望みます。</p> <p>（2）現在市が進める「景観に配慮する無電柱化」は一旦中止し、生活に密着する「生活ごみの処理方策」を先に議論し新たに実行することを望みます。</p>	<p>における大量消費や人口増加とそれに伴うごみ量の増高や人件費の上昇を背景に、ごみ収集車と比較してごみ処理のコストの縮減が見込まれたためでしたが、その後、ごみの減量や分別などの社会情勢の変化等により、パイプラインで処理されるごみ量が減少し、現状は、ごみ収集車と比較して維持経費が割高な状態になっています。</p>
7	<p>ごみ収集パイプライン施設は芦屋市と住民の大事な共有資産であり、長期間に渡って適正に維持運用することは芦屋市に課せられた義務である。今回の報告で言及されている期間について、長雨や機器故障による長期間の運転停止などが発生しないよう、迅速で的確な対応を心掛け、適正な維持管理に全力で取り組んで頂きたい。</p>	<p>パイプライン施設については、芦屋浜地域は 15 年、南芦屋浜地域は 30 年経過した時期から運用年数（芦屋浜地域は 20 年、南芦屋浜地域は 32 年）までに、順次代替収集へ変更していけるよう適切な維持管理に努めてまいります。</p>
8	<p>パイプライン施設を利用させてもらっている者としては大変ありがたく使用させていただいております。当初街づくりの一環としてパイプラインの設置は半永久使用可能なものだと設置されたと思いますが、思わぬ震災や風水害のため老朽化が早まったのでしょうか。設置当初は高度成長期で市の財政もうるおっていたのでしょうか、昨今の経済の低迷期では市の財政に負担をかけることにこの地域だけが甘んじるわけにはいきません。市の提案である運用限度今後 20 年とする事には受けざるを得ないと思います。その間修理補修をしていただき個人が意識をもって大事に使ってゆくことを心がけねばなりません。街づくりから 45 年、居住者も高齢化しており最初は 5 回の収集となっておりますが、週 2 回の収集では少なすぎると思います。市長の掲げる「美しい庭園都市芦屋」であれば市内のゴミ収集は週 3 回に。草花を植えていくばかりでは美しい街になりませんよ。</p>	<p>パイプライン施設については、芦屋浜地域は 15 年、南芦屋浜地域は 30 年経過した時期から運用年数（芦屋浜地域は 20 年、南芦屋浜地域は 32 年）までに、順次代替収集へ変更していけるよう適切な維持管理に努めてまいります。</p> <p>なお、パイプライン地域以外に関するご意見につきましては本市の環境行政や廃棄物行政全般の課題と考えております。</p>
9	<ul style="list-style-type: none"> <li>パイプラインを今後ともに利用したいですが、費用の点を考えると永遠に使い続けるのは難しいと理解しています。そこで今後 10 年はパイプラインが終わるのは納得できないが、芦屋浜は今後 20 年間、南芦屋浜は 32 年間は継続して利用していきたいです。</li> <li>パイプライン非利用者のごみに関するサービスレベルも今の週 2 回以上の回収、ゴミ集積施設の設置などの検討を今後行い、芦屋市全体のゴミに関するサービスレベルを向上していただきたい。</li> </ul>	<p>パイプライン施設については、芦屋浜地域は 15 年、南芦屋浜地域は 30 年経過した時期から運用年数（芦屋浜地域は 20 年、南芦屋浜地域は 32 年）までに、順次代替収集へ変更していけるよう適切な維持管理に努めてまいります。</p> <p>なお、パイプライン地域以外に関するご意見につきましては本市の環境行政や廃棄物行政全般の課題と考えております。</p>
10 ～	<p>我々としてはごみパイプラインを恒久的に使用したいところです。パイプラインが利用できる地域ということで入居したのに財政的に困難ということだけでは納得ができません。費用はか</p>	<p>パイプライン施設の設備の保全に努めてまいりましたが、供用開始から 39 年経過し、輸送管等の老朽化が深刻であり改修等に多額な経費</p>

26	<p>かるものとして積み立てておいたり前もって保全修理をして多額の費用が急にかかる事態を回避するのが政策というものではないでしょうか？しかし、現在の芦屋市の財政を考えると急に大きな費用を拠出する困難も理解できます。</p> <p>この数年間、芦屋市環境施設課と利用者の会が協議してきたように、今後も費用の削減や運用方法の工夫をしながらパイプライン施設の代替案を検討し、住居形態（高層・中層・タウンハウス・戸建て）や国内・諸外国の都市の状況を考慮して納得のいく方法へと転換していくよう望みます。 <b>※同意見ほか 16 名</b></p>	<p>がかかることから施設を運用し続けることは困難と考え、施設の運用年数を定め、大規模改修や施設更新などは行わず、補修等で運用し、運用経費についてもさらなる経費節減に努めることとしました。</p> <p>代替収集方法は、パッカー車による車両収集とし、ごみの集積方法につきましては、技術革新や住宅形態等を鑑み、合理的な収集方法の検討を続けてまいります。</p>
27	<p>パイプライン施設を毎日使っている市民として便利さ清潔さなどありがたく思っております。他市に先がけてこのシステムが設置されて、さすが芦屋とうれしく誇りです。どうぞいつまでもこの自慢できるシステムを続けていただきたくお願いいたします。使用者も使用法に気を付けて大切に使いたいです。目に見えないお金にかえられないありがたさを感謝しています。</p>	<p>パイプライン施設の輸送管等の老朽化が深刻であり改修等に多額な経費がかかることから施設を運用し続けることは困難と考え、施設の運用年数を定め、大規模改修や施設更新などは行わず、補修等で運用し、運用経費についてもさらなる経費節減に努めることとしました。</p>
28	<p>平成 30 年 8 月のパイプライン停止で分かったことはカラスが増え街が汚くなる。自分のマンションはきれいにしても隣はちらかし放題。収集に替えたとき運転手ほか十分は採用できないのは明白。必然的に外国人労働者が増える。治安が悪くなる。パイプラインは廃止ではなく拡充するべきです。</p>	<p>パイプライン施設の輸送管等の老朽化が深刻であり改修等に多額な経費がかかることから施設を運用し続けることは困難と考え、施設の運用年数を定め、大規模改修や施設更新などは行わず、補修等で運用し、運用経費についてもさらなる経費節減に努めることとしました。</p> <p>代替収集方法は、パッカー車による車両収集とし、ごみの集積方法につきましては、技術革新や住宅形態等を鑑み、合理的な収集方法の検討を続けてまいります。</p>
29	<p>パイプライン存続</p>	<p>パイプライン施設の輸送管等の老朽化が深刻であり改修等に多額な経費がかかることから施設を運用し続けることは困難と考え、施設の運用年数を定め、大規模改修や施設更新などは行わず、補修等で運用し、運用経費についてもさらなる経費節減に努めることとしました。</p>
30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・使用者の使い方による原因による度々の故障等による問題の発生等があり、私も一利用者として考えさせられることもあります。この点については今後より一層ていねいに使用することを続けていきたいと思えます。</li> <li>・使用期限を設けることよりも永続して使用するための方策を考えて欲しいと思えます。</li> </ul>	<p>パイプライン施設の輸送管等の老朽化が深刻であり改修等に多額な経費がかかることから施設を運用し続けることは困難と考え、施設の運用年数を定め、大規模改修や施設更新などは行わず、補修等で運用し、運用経費についてもさらなる経費節減に努めることとしました。</p> <p>丁寧な使用につきましては、利用者の皆様と協働して取り組んでまいります。</p>

31	<p>廃止することなくパイプライン施設の利用を希望します。とても便利な施設なので、廃止するのではなく、他の地域でも導入を考える方向ですすめてほしいです。運用ができるようなきまりを作って長く使用できるようにしてほしい</p>	<p>パイプライン施設の輸送管等の老朽化が深刻であり改修等に多額な経費がかかることから施設を運用し続けることは困難と考え、施設の運用年数を定め、大規模改修や施設更新などは行わず、補修等で運用し、運用経費についてもさらなる経費節減に努めることとしました。なお、パイプラインの他地域への導入は考えておりません。</p>
32	<p>パイプラインが芦屋浜・南芦屋浜地区に設置された目的はより良い環境地区づくりを目指して設けられたと思います。</p> <p>その清潔な環境に憧れてこの地に居をかまえた人たちが住んでおります。</p> <p>パイプライン運用が不具合で停止すると、ゴミ収集場所にカラスが集まりゴミが散乱し、環境破壊が起こっております。(特にこの地域はカラスが多く、鳴き声に困惑することも再三あります。)</p> <p>パイプラインによる清潔な環境を維持するために、芦屋市環境施設課と芦屋浜・南芦屋浜住民との相互協力によるパイプライン運用経費の節減、並びに現計画パイプライン運用年数の延命化を計って頂きたい。</p> <p>尚、パイプライン代替案は住居形態を考慮し、設置場所並びにゴミ収集施設について現在の環境を維持または向上できる設備を計画して頂きたい。</p>	<p>パイプライン施設の輸送管等の老朽化が深刻であり改修等に多額な経費がかかることから施設を運用し続けることは困難と考え、施設の運用年数を定め、大規模改修や施設更新などは行わず、補修等で運用し、運用経費についてもさらなる経費節減に努めることとしました。また、代替収集方法は、パッカー車による車両収集とし、ごみの集積方法につきましては、技術革新や住宅形態等を鑑み、合理的な収集方法の検討を続けてまいります。</p>
33	<p>パイプラインは長年の使用で不具合が起こる頻度が高くなっていること、利用者側の問題で設備の不具合が起こることは十分承知しております。従来からも地域住民はパイプラインを大切に使用してきておりましたが、芦屋市からパイプライン廃止の意向が打ち出されてからは、使用者住民は、なお一層パイプラインを大切に使用しようとして行動に移しております。ごみパイプライン輸送の恩恵については利用者住民は十分に認識しており、さらに地域の自治会・管理組合もパイプラインの適正利用に関して啓蒙活動を実施することも怠ってはおられませんし、今後も利用者側によるパイプライン不具合発生をなくす努力も続けてまいります。</p> <p>ごみのパイプライン輸送をできるだけ長く使えるようにしていただきたい</p> <p>パイプラインは、芦屋市の重要なインフラです。これにより多くの市民が恩恵を受けております。既にパイプライン協議会・パイプライン利用者の会がありますが、さらに多くの住民を巻き込んでパイプラインの経費節減、不具合(住民が責任によるもの)の低減を目指すべきと考えます。芦屋市と大勢のパイプライン利用者が一丸となって、パイプライン存続に取り組む</p>	<p>パイプライン施設の輸送管等の老朽化が深刻であり改修等に多額な経費がかかることから施設を運用し続けることは困難と考え、施設の運用年数を定め、大規模改修や施設更新などは行わず、補修等で運用し、運用経費についてもさらなる経費節減に努めることとしました。代替収集方法は、パッカー車による車両収集とし、ごみの集積方法につきましては、技術革新や住宅形態等を鑑み、合理的な収集方法の検討を続けてまいります。</p> <p>なお、パイプライン地域以外に関するご意見につきましては本市の環境行政や廃棄物行政全般の課題と考えております。</p>

	<p>ことができれば大変ありがたいと思います。パイプラインをできるだけコストがかからないものにし、長くパイプラインが使用できる環境を整えていただきたいと思います。</p> <p>やむなくパイプラインを廃止しなければならなくなった場合</p> <p>芦屋市、利用者住民一丸となった経費節減等の策を講じてもパイプラインの存続が困難になった場合は、街並み美観形成等の観点から、現在実施している路上に集積したゴミを収集車が回収して回る方法ではなく、芦屋市にふさわしい方法を代替方法に採用していただきたいと思います。代替方法としては、パイプライン利用地域だけでなく、芦屋市全体のごみ収集・処理に関する将来構想を策定いただき、市全体に普及できる芦屋市にふさわしい方法でぜひお願いしたいと思います。少なくとも、現在実施している作業員が手でごみを拾い上げて収集車に投入するというごみ収集の方法は芦屋市にふさわしくありません。</p> <p>芦屋市とパイプラインを使用している住民が一体となつてのパイプラインの恒久的な存続をお願いします。やむなくパイプラインを廃止しなければならない場合は、芦屋市にふさわしい先進的なごみ収集方法の採用をお願いいたします。</p>	
34	<p>芦屋市は住み心地の良い地域でパイプライン施設の存在も一例です。このパイプライン施設を廃止することはもってのほかであり市の方針として広大すべきものと考えます。私が昭和57年に西宮市堀切町から移転してきたのもパイプライン施設のある住み心地の良さ（兵庫県の証明）を信用したからであります。</p>	<p>パイプライン施設の輸送管等の老朽化が深刻であり改修等に多額な経費がかかることから施設を運用し続けることは困難と考え、施設の運用年数を定め、大規模改修や施設更新などは行わず、補修等で運用し、運用経費についてもさらなる経費節減に努めることとしました。なお、パイプライン施設の他地域への導入は考えておりません。</p>
35	<p>未来都市、清潔と説明され兵庫県住宅供給公社と契約し緑町を購入しました。そして今も芦屋市は、景観・憧れる街・美しい街を掲げている。維持費に係るので廃止は、契約違反である。JR芦屋南再開発で、山城氏は今お金が余っているので再開発をすると発言、市の答弁がことなる。</p>	<p>公共施設等は、社会情勢の変化に伴い、そのあり方の検討や見直しを図らなければなりません。パイプライン施設も同様であり、このたび、経費の面等から運用し続けることは困難と判断し、施設の運用年数を定めることとしました。</p>
36	<p>1、ゴミパイプラインを設置した時点では最良のごみ収集システムと判断されたと思います。利用者である私達は現在もそのように考えています。</p> <p>2、このパイプラインを中止して自動車によるごみ収集に逆戻りすることが良策でしょうか。将来再度パイプラインを設置することに戻るのではないのでしょうか</p> <p>3、パイプラインは維持費が多額なので廃止と聞いております。その経費を減額するため私達利用者は禁止行為を守りたいと考えます。また鍵の変更、夜間の利用制限を行い、他所からの</p>	<p>パイプライン施設の輸送管等の老朽化が深刻であり改修等に多額な経費がかかることから施設を運用し続けることは困難と考え、施設の運用年数を定め、大規模改修や施設更新などは行わず、補修等で運用し、運用経費についてもさらなる経費節減に努めることとしました。</p>



	投入をカバーできないかと思えます。最終的には月 1000 円程度の利用者負担を考えなければ と思えます。	
37	現状のままでパイプラインを維持してほしいです。	パイプライン施設の輸送管等の老朽化が深刻であり改修等に多額な 経費がかかることから施設を運用し続けることは困難と考え、施設の 運用年数を定め、大規模改修や施設更新などは行わず、補修等で運用 し、運用経費についてもさらなる経費節減に努めることとしました。
38	パイプライン施設は世界でも最先端のごみ収集システムであり、将来世代に残すべき立派なシ ステムです。また、2005 年に南浜町の土地購入を兵庫県企業庁と契約するときに、パイプライン の費用を含んだ価格で購入しました。このため、パイプライン施設は市が保有管理する施設 ですが、関係する住民全ての共有財産とも言えます。私の街区の自治会でも、このことは共有 しています。 こうした観点から、廃止だけを前提とする条例案は間違っています。さらに、廃棄する費用も 大きい。 そこで、芦屋浜は 20 年後廃止、南芦屋浜は 32 年後廃止だけが前提ではなく、「20 年後 30 年後 の先端技術開発の可能性を鑑み、その時点での維持や発展を再検討する」と附則するべきです。	パイプライン施設の課題解決のための方針として施設の運用年数を 定め、大規模改修や施設更新などは行わず、補修等で運用し、運用経 費についてもさらなる経費節減に努めることとしておりますので、こ のような考えを基本に関係条例を整備してまいります。
39	パイプラインが無くなりますと陽光町は高齢者の一人暮らしの方がほとんどです。故にネット を被せていてもカラスや猫が袋をかみきり生ごみが散乱します。高齢者の方がバケツに水を汲 んでホーキ・チリトリ・水の入ったバケツ等を持って行ってきれいに清掃できる筈がありませ ん。パイプラインをなくすことはいたって大反対です。よろしくをお願いします。	パイプライン施設の輸送管等の老朽化が深刻であり改修等に多額な 経費がかかることから施設を運用し続けることは困難と考え、施設の 運用年数を定め、大規模改修や施設更新などは行わず、補修等で運用 し、運用経費についてもさらなる経費節減に努めることとしました。
40	今から 40 年程前、国・県・市をあげてのプロジェクトで、莫大な予算をつぎ込んで完成した、 当時の「清潔な最先端都市・芦屋」のシンボルであり、芦屋市の人口の 15%近くもの人達を他 県から集め、市の発展に大いに貢献した看板施設が、ゴミパイプラインです。その後当選さ れた、山中市長の、今後何十年間の修繕予算を積算し、それを別のプロジェクトに転用されたい との思惑からか、パイプラインが廃止の方向に向かっているのに反対し、修繕を続け、出来 るだけ長期にわたっての存続を希望します。 他の市などから、清潔な都市芦屋に憧れて集まってきた、市人口の 15%のパイプライン地区 の人達の、現在の生ゴミを道路に置かない、世界一清潔な暮らしを、守ってくださるよう願 いいたします。	パイプライン施設の輸送管等の老朽化が深刻であり改修等に多額な 経費がかかることから施設を運用し続けることは困難と考え、施設の 運用年数を定め、大規模改修や施設更新などは行わず、補修等で運用 し、運用経費についてもさらなる経費節減に努めることとしました。 この取組を契機として、環境にやさしい清潔な街づくりを進める対策 を検討します。 また、公共施設等は、社会情勢の変化に伴い、そのあり方の検討や見 直しを図らなければなりません。パイプライン施設も同様であり、こ のたび、経費の面等から運用し続けることは困難と判断し、施設の運

<パイプライン廃止 反対の理由>

(1) スウェーデンを参考にした、生ゴミや、人や動物の排泄物の臭いのする廃棄物を、道路に置く瞬間がなく、直接焼却場に運んでしまうパイプラインは、今や、世界で最も清潔で環境に優しい装置なのです。環境保護最優先の、世界の潮流にも乗っています。

市の 15%の人達が、世界一清潔な暮らしをしていることを、市長が世界の市長に知らせれば、芦屋市のイメージが輝き、市長の株も上がります。(市長は、こんな環境最優先の世界の潮流の中で、環境破壊者としての名を、世界に売ってはなりません)

(2) パイプラインの修繕費を、今後の何十年分も合算して、高すぎるから廃止するとか、市の人口の 15%の人しか修繕の恩恵を受けないからダメだという考えはナンセンスだと思います。修繕費を節約するために、新幹線を SL に戻したり、下水管をやめてドブに戻すような論理だと思います。また、1人でも困っている市民がいれば、助けるのが、まつりごとだとおもいます。

(3) 廃止する場合に、本来ならかかる費用が忘れられています。現段階では、人口の 15%の人達の生活の質(いつでも生ゴミが捨てられ、直接焼却場に運ばれる世界一清潔な生活)を切り捨てることによって成立します。この生活の質を守るなら、生ゴミを粉碎して、下水に流せるミキサーを各戸に設置するとか、臭いを防ぐため、生ゴミ用冷凍庫を設置し、冷凍車で、毎日回収するなど、多大な費用がかかるはずです。すでにパイプライン廃止の情報が漏れているのか、パイプライン地区の不動産価格が、下がってきています。早めに脱出しないと、叩き売ろうにも売れなくなるのでしょうか。発売当初の、募集の豪華カタログには、一代限りで、パイプも換えずに廃棄するとは書いていませんでした。少なくとも、子や孫にはわたせると思っていました。人口の 15%近くの人々を集めた、看板政策を早々に止め、生活の質を落とし、資産価値を下げるのは、一種の詐欺行為になってしまうのではないのでしょうか。日本でも出来るようになった、集団訴訟を防ぐためにも、当初購入した人たちに補償金(数百万円?)を準備しておく必要はないのでしょうか。

<妥協案>

最終的に廃止(本当は絶対反対)するにしても、穴だらけのパイプを一回も換えずに廃止する前に、ラインイン工法で内部に新しいパイプを設置し、大きくないサイズの、滑りやすい袋を、市が、生ゴミ用と決め、その袋にゴミを詰めて捨てるようにすれば、パイプはそれから、10年は長持ちするのではないのでしょうか。より細かいパイプを、更にもう一度設置すれば、更に長

用年数を定めることとしました。

なお、修繕方法や費用等については利用者の皆様と検討しているところです。

く使えるのではありませんか。また、パイプに穴がないから、雨水の対策にもびったりです。できれば、監視カメラを設置し、最近多い、業務用ゴミの投棄によるパイプの閉塞や、パイプが傷むのを防ぎたいものです。市の人口の15%の人達(パイプライン使用地区)のためだけには、市は、パイプラインの修繕費の予算は使えないということであれば、15%の人達(家族)が一戸あたりどれくらいの修繕費用を出せば、パイプラインをこのまま維持できるのか調べてほしいものです。ゴミの量も減っており、電気代も安くなってるはずですが。修繕費の不足する分は、人口の15%の人達で、若者にも手伝ってもらって、世界の環境団体などを中心に、世界で一番環境に優しい装置を、まだ修繕をすれば使えるのに、修繕費がかかる事を理由に廃棄しようとしている、芦屋市の現状をITで報告し、クラウドファンディングで、集める努力をしないといけないのかもしれない。

<終りに>

もし、今から、環境に配慮して、新しく生ゴミを道路に置かず、焼却場に送れる清潔さを保てる装置を作ろうとしたら莫大な費用がかかります。

しかし、古くなったとはいえ、現に今、それが芦屋市にあるわけです。少々修繕費が高かろうが、修繕して使い尽くさないと、もったいないのではないかと。潰れるまで長いこと使ってこそ、芦屋市の清潔さが保たれ、これを作った先輩たちの莫大な予算が、報われるのではないのでしょうか……

以上が、パイプライン閉塞の時、自宅居間の横の道路で、カラスに撒き散らされた、悪臭のする、生ゴミや糞などを何度も掃除した経験のある者としての感想です。ゴミ箱の候補が、冷凍や防臭のできない、鍵のかかる箱では納得できないのです。パイプラインの清潔さに、あらためて気づきましょう。

パイプライン施設は税金によって管理運用される公共サービスである。パイプラインにより市民の一部だけに非効率の高レベルサービスを提供し続けるのは公平とは思われない。

41      パイプラインシステムの効率性が確認できれば全世帯へ普及させることも可能と思われるが、これまでの運用により非効率性が明らかとなり、今後も全世帯へ適用しないのであれば直ちにパイプラインシステムを破棄し、芦屋市一般世帯と同様の規則によるゴミ収集方法に変更するのが税金の有効な使い方である。市当局は公共サービスの原則に基づき、パイプライン利用者の勝手な言い分(サービス既得権)に振り回されずパイプラインシステムを即時停止して

パイプライン導入の経緯・経過からソフトランディングの観点も考慮し、一定の運用年数を定めるなど、今般の廃棄物運搬用パイプライン施設の今後のあり方についての取り組みに沿って進めてまいります。

	いただきたい。	
42	<p>ごみの処理には大変感謝しています。私はパイプラインを毎日利用してごみを処理して頂いて大変便利に利用している者です。今後もパイプラインを利用したいと思っておりますが継続が難しいと聞きました。その代替案として地下貯留式ごみ集積施設を考えて欲しいと思いません。ヨーロッパの多くの国ですでに採用されていると聞きます。ぜひお願いします。</p>	<p>代替収集方法は、パッカー車による車両収集とし、ごみの集積方法につきましては、技術革新や住宅形態等を鑑み、合理的な収集方法の検討を続けてまいります。</p>
43	<p>現在のパイプライン施設は、わが国の経済高度成長期を背景にした大量消費時代の産物ですが、地下埋設管による機械式吸引方式は現時点での技術レベルでは維持保全費に高額な費用がかかることから、より経済的・合理的・安全的かつ都市景観を配慮した新しいゴミ収集方式を検討することが必要です。</p> <p>オートロック施設機能付ゴミ集積施設案及びオープンゴミ集積施設は経済的には低額ですが、景観を重視している芦屋市としては独自のごみ収集方式を考案すべきです。日本でもすばらしい都市景観政策として無電柱化を進めた結果、歩いていて電柱は無くなりましたがゴミ箱だけが目立つ街並みは避けたいものです。ぜひ何かの工夫が必要です。</p> <p>新ゴミ収集方式は、良好な都市景観の形成及び通行空間の安全性・快適性を確保するとともに芦屋市全域において対応可能な仕様とすべきです。設置される立地条件等に合わせた方式を検討する必要があるとともに、設置後の計画的な保守保全方法による経済的で効率的な運用が行なえる仕様とする必要があります。</p> <p>また、環境省による統計値（H28）において、芦屋市の一人当たり生活ゴミ排出量は兵庫県内では2番目に多く、ゴミの排出に関する環境問題は企業責任だけでなく市民の問題意識の認識も重要な課題です。日本は電柱問題に関する都市景観意識とゴミ問題に対する都市環境意識が低いように思います。この機会に、市民意識の向上政策として日本において芦屋市が率先して、無電柱化に続いてゴミ問題を含めた総合都市環境対策を進めて頂きたいとお願いします。</p>	<p>代替収集方法は、パッカー車による車両収集とし、ごみの集積方法につきましては、技術革新や住宅形態等を鑑み、合理的な収集方法の検討を続けてまいります。</p> <p>なお、パイプライン地域以外に関するご意見につきましては本市の環境行政や廃棄物行政全般の課題と考えております。</p> <p>市民意識の向上施策については、関連する施策で取り扱うものと考えております。</p>
44	<p>パイプライン施設の代替案を専門家の意見を取り入れて早急に検討して頂きたい。自然現象で停止では今後どのような災害が起きるか分かりません、経費を抑えつつ最良の代替案を検討していただきたい。但し高層階から1階までのパイプラインは残し1階のごみ搬入口を改良してパッカー車に直接搬入できるように考えると、1階にごみコンテナを置き時間ごとにコンテナを回収していただくとか、何とか良き案を考えて下さい。</p>	<p>代替収集方法は、パッカー車による車両収集とし、ごみの集積方法につきましては、技術革新や住宅形態等を鑑み、合理的な収集方法の検討を続けてまいります。</p>
45	<p>代替案については短絡的発想で決めるのではなく、ごみ収集運搬業務の合理化、費用削減、衛</p>	<p>パッカー車による車両収集のための、ごみの集積方法につきましては</p>

	<p>生管理の向上という視点を持って、更なる議論をお願いしたい。</p> <p>オートロック式ごみ集積施設は週5回収集を必要とし、ごみ収集運搬業務の合理化、費用削減に反するものである。将来の労働人口減少を考えると大問題である。</p> <p>他の自治体の事例やヨーロッパの先進技術をもっと研究して、将来世代に禍根を残さない方法を考えて欲しい。代替案についてはパイプラインの無い地域にも適用して、芦屋市全体として衛生的で利便性が高く、省力化が図れる先進のごみ収集運搬システムを確立して欲しい。</p>	<p>は、技術革新や住宅形態等を鑑み、合理的な収集方法の検討を続けてまいります。なお、パイプライン地域以外に関するご意見につきましては本市の環境行政や廃棄物行政全般の課題と考えております。</p>
46	<p>代替案について芦屋市のごみ収集に関して…収集員が直接ゴミに触れない。…ゴミを収集車に搬入するのにできるだけ合理化をする…ごみ収集の人手を省力化する。高層、中層マンションはドラム式の機械設備が現在有効と考えます。初期投資は高くなりますが、収集の人件費や収集員の安全性を考えれば最善と考えます。また、現在西宮のマンションで採用されているプラスチックの移動式コンテナも考慮できるかもしれません。タウンハウス、一戸建てについては地下ピット方式が良いと考えます。私は協議会、自治会で何度も説明していますが、ヨーロッパでは地下ピット方式が旧市街地（人口密度が高い地域）でどんどん採用されています。現在も地上のゴミのコンテナからの変更が進んでいます。ヨーロッパ各国で様々なメーカーが生産をしています。ヨーロッパの多くはゴミ収集について省力化が進んで収集はユニック（クレーン）でゴミ箱を吊り上げ収集車に搬入する方式です。一部ゴミの収集で地下にコンテナが置かれ地上にリフトアップされ収集する方式があります。これを地下ピット方式と呼んでいます。これは下記のような利点があります。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1、景観が保てる（「住みやすい街 住んでみたい街芦屋」に相応しい）</li> <li>2、現在のパイプラインシステムと投入方法が同じで違和感がない</li> <li>3、現在の地下ピットが利用できる（新たに掘る必要がない）</li> <li>4、維持管理に住民負担がない</li> <li>5、現在（今後）のパイプラインシステムの維持管理費より断然安くつく</li> <li>6、現在のパイプラインシステムと同じく衛生面・カラス対策に有効である</li> <li>7、2名体制で対応できるので人件費の削減が可能</li> <li>8、地下ピット内は油圧式昇降機くらいなのでメンテナンスをそれ程必要としない</li> <li>9、収集員が直接ゴミに触れないので作業中の安全性が保てる</li> <li>10、今後パイプラインシステム非利用地域への拡大も考えられる（芦屋市全体のモデルになり</li> </ol>	<p>代替収集方法は、パッカー車による車両収集とし、ごみの集積方法につきましては、技術革新や住宅形態等を鑑み、合理的な収集方法の検討を続けてまいります。なお、パイプライン地域以外に関するご意見につきましては本市の環境行政や廃棄物行政全般の課題と考えております。</p>

将来的には他の地域への拡大の可能性もある)  
この設備を一戸建てタウンハウスへ導入を希望いたします。

清掃員がごみ箱の横でコントロールパネルを操作すると.....



ごみ箱が床ごとせり上がり、地下から大きなごみボックスが出現しました。



ごみボックスにはカートがついているのでそのまま清掃車まで持ち運べるというわけです。



47 現在シーサイドではごみ収集の方法として、パイプラインが稼働しています。しかし、この方法はコストパフォーマンスの点から存続が危ぶまれているとの事であります。その点を踏まえ、芦屋市全体のごみ収集の方法についての意見を述べさせていただきます。

パイプラインによるごみ収集方式は確かにコストはかかりますが、世界的に見て、最先端と言ってもいいほど優れたシステムであります。芦屋市が日本、いや世界に誇れるシステムであり、このシステムのおかげで、シーサイド地域におけるカラスによるゴミの散乱被害は殆どと言ってありません。この方式を少しでも長く、できれば半永久的に活用できるよう最大限の努力をしていただきたいと切に願います。修復等については今後の技術革新に期待し、低コストの修復方法の提案を期待しています。

A) 万が一、このパイプラインの収集方法がどうしても維持できないと判断した時は、その代替案は、芦屋市の基本理念である「美しい街芦屋」「生活しやすい芦屋」「誰もが住みたいまち芦屋」というコンセプトに合致し、街並み、景観の低下や住民の生活水準の低下を招くことのない清潔なごみ収集方法にして下さい。

B) 上の A の目的を達成するために、「ごみ収集パイプライン利用者の会」が平成 29 年に提案した「オートロック方式付き物置状収集施設」の設置は特に一戸建て住宅地域には全く馴染めず、許せない提案であり、断固拒否いたします。

C) 現在の段階で最も優れた代替案としてヨーロッパを中心にごみ収集の方法として稼働し

パイプライン施設の輸送管等の老朽化が深刻であり改修等に多額な経費がかかることから施設を運用し続けることは困難と考え、施設の運用年数を定め、大規模改修や施設更新などは行わず、補修等で運用し、運用経費についてもさらなる経費節減に努めることとしました。代替収集方法は、パッカー車による車両収集とし、ごみの集積方法につきましては、技術革新や住宅形態等を鑑み、合理的な収集方法の検討を続けてまいります。この取組を契機として、環境にやさしい清潔な街づくりを進める対策を検討します。なお、パイプライン地域以外に関するご意見につきましては本市の環境行政や廃棄物行政全般の課題と考えております。

	<p>ている地下ピット方式が現在のところ、芦屋市が目指すべき方向に最も近い方法だと考えています。この方法を実用化することにより、初期費用は当然必要ですが、ランニングコスト、特に人件費の削減に寄与できるものと考えます。</p> <p>D) この地下ピット方式はシーサイド地域では現在のパイプラインのごみ収集ボックスの地下を利用することにより、比較的安価に設置することができます。また、旧市街地域においても順次設置することにより、芦屋市全体が「ごみのない街」として全国、いや世界から注目、評価される市になると考えます。そのことにより他の市町村より、芦屋市に移住を希望する住民が増加することは想像に難くありません。</p> <p>以上の意見はシーサイド地域に居住する多くの住民の意見と考えています。電信柱がない街よりも、看板が少ない街よりもごみのない街の方が魅力的であると考えますがいかがでしょうか。</p>	
48	<p>便利性、経済性、美観、鳥対策等地下ピット方式がベストと考えられる。(補) パイプライン施設のメンテナンス費用を設置時に充分考慮していなかったのは誠に不思議な話</p>	<p>パイプライン施設の導入理由は、当時の社会情勢である高度経済成長における大量消費や人口増加とそれに伴うごみ量の増高や人件費の上昇を背景に、ごみ収集車と比較してごみ処理のコストの縮減が見込まれたためでしたが、その後、ごみの減量や分別などの社会情勢の変化等により、パイプラインで処理されるごみ量が減少し、現状は、ごみ収集車と比較して維持経費が割高な状態になっています。</p> <p>代替収集方法は、パッカー車による車両収集とし、ごみの集積方法につきましては、技術革新や住宅形態等を鑑み、合理的な収集方法の検討を続けてまいります。</p>
49	<p>1, いつどこで住民代表なる者が市の交渉を行っているのか。住宅形態によって今後の利用を考えるとすれば、高層(賃貸・分譲)中層・低層住宅に区分され、それぞれの代表と話し合うべきです。一緒に今後方針を検討しても利害関係が異なるのでまとまるはずもありません。</p> <p>2, 低層住宅には「地下貯留式ごみシステム」が海外での利用実績があり好ましい。</p> <p>3, 高層住宅は「ダストドラム方式」中層住宅も同様。これをチョイスしないのは現状のごみ収集システムを理解できていない。大規模な建て替えを予定している場合はその時に合わせて導入するべきだ。</p> <p>4, 高層住宅の代表が中心の利用者の会は公平性の観点からおかしいし承認するつもりもな</p>	<p>代替収集方法は、パッカー車による車両収集とし、ごみの集積方法につきましては、技術革新や住宅形態等を鑑み、合理的な収集方法の検討を続けてまいります。</p> <p>その他、様々なご意見をお聞きしながら取組を進めてまいります。</p>



	<p>い。</p> <p>5, シーサイド地区の市議会議員の広報を見たが私はこれに賛成する。ヨーロッパの事情に詳しく見事に日本のごみ収集システムの欠点を指摘していた。</p> <p>6, パイプラインを中止する場合はこのパイプラインを利用して地下ケーブル配線を通して無電柱化をすすめるべきだ。</p> <p>7, 山手地域の人たちがシーサイドだけ利便性のある施設が不公平という意見が山手選出の市議会議員から出ていたが、ならば山手地域のゴミをこちらに持ってくるのは止め、その地域で焼却施設建設してもらいたい。不見識も甚だしい。</p> <p>8, この地域のパイプラインは行政主導で作られたものだが、都合が悪くなると不公平な施策という市長にはがっかりした。</p> <p>9, 先の台風 21 号で南芦屋浜は高潮で浸水したがこの事実を市長が知らなかったと聞くこの地域の避難所の問題はパイプライン同様に重要なことだ。</p>	
50	<p>潮見町に入居して4年になります。ここに利便性の高いパイプラインがあるということで芦屋市内から転居しました。</p> <p>そうするといきなり廃止案があることを知りました。</p> <p>住所変更する際に市役所でこの件のお知らせが必要だったでしょう。そういうことでしたらこの地域に引っ越ししなかった。</p> <p>戸建てと集合住宅で代替案が異なるとあり、これは大賛成です。</p> <p>集合住宅の20年後は建て替える計画も出てくるでしょうから、戸建てとは事情がことなり「他のマンションにあるようなオートロックゴミ集積場」でいいでしょうが、戸建てはそうは行きません。物置を設置して街の景観が台無しですし、ご近所の市議会議員さんのレポートにあった「ヨーロッパ型のごみ箱」のようなものが似合うと思います。また、芦屋市内全域で利用可能でしたら景観に優れている方法が芦屋らしいと考えます。</p> <p>お友達が高浜町の松陰の街に住んでいますが、ここにはパイプラインがありませんが、この場所に地下ピットを設置すると素晴らしい地域になると思います。南芦屋浜も同様です。</p> <p>ヨーロッパで見たあのごみ収集は人の手を介さないということ主流です。</p> <p>芦屋市のような先進的な地域で導入されて世界に誇る綺麗な街にして欲しいと思います。</p> <p>先日の台風で被害があった地域の方へのお見舞い金など早急をお願いしたいと思います。</p>	<p>代替収集方法は、パッカー車による車両収集とし、ごみの集積方法につきましては、技術革新や住宅形態等を鑑み、合理的な収集方法の検討を続けてまいります。なお、パイプライン地域以外に関するご意見につきましては本市の環境行政や廃棄物行政全般の課題と考えております。</p>

51	<p>わからないことが多いですが、私の意見です。</p> <p>ゴミ用パイプライン施設は、国の政策のもとに補助金が出て、兵庫県と芦屋市がこれに賛同して造られた施設で、我々は、この様な先進的で素晴らしい施設が在るとの事で、土地を購入し、家を建ててきましたが、芦屋市は当初予定より維持費がゴミパッカー車より高くつき、今後45年間で342億円が必要との事で、廃止方針を出され、そこで我々は廃止案に反対を表明し、「廃止反対運動」を行ってきました。しかし、輸送管は敷設されて既に40年が経過し、経年劣化により各所に穴が空き、毎年大雨毎に1か月以上使用できない状態が発生しています。我々としては、ゴミ用パイプライン施設を永久的に使用したいところですが、輸送管の現況と更新に100億円以上必要との事を考えると、永久的使用を残念ながら諦めざるを得ません。芦屋市は、利用者の会と1年間協議した結果、芦屋浜は20年後、南芦屋浜は32年後に廃止との方針を出されました。この方針は、余程の大災害が起こらない限り、継続してもらえるよう要望します。</p> <p>我々が一番問題にするのは、廃止後の代替案についてです。現在代替案に関して、オートロック施設付きごみ集積施設案と、住宅形態に応じた他都市や諸外国の状況、今後の技術革新を参考にして、検討していくと記載されています。我々戸建て住宅・低層住宅の住民としては、このオートロック施設付きごみ集積施設案は、現在の投入口の場所に、ゴミ用収納倉庫を建てる案で、街の景観を害するので到底受け入れる事は出来ません。</p> <p>芦屋市は、日本一厳しいとされる看板条例を設け、無電柱化も進めようとしています。これ等は、芦屋市をより美しい街 国際都市に相応しい街にする為のものであり、地上にゴミ用収納倉庫を設置するのは、この方針に逆行するのではないのでしょうか。</p> <p>そこで我々が推奨するのは、既にヨーロッパの多くで採用されており、今後も広く普及が計られている、「地下貯留式ゴミ集積施設案」(地下ピット方式)です。(別紙写真参照)これは写真の通り、現在の投入口の下に貯留槽部分にキャスター付きのごみ箱を置き、下から昇降機で機械的に持ち上げて、ゴミ箱ごと回収員がパッカー車まで運ぶ方式です。「地下貯留式ゴミ集積施設案」(地下ピット方式)の利点を記述します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1, 地上の投入部分は、現在よりよりコンパクトになり、街の景観が一層良くなります。</li> <li>2, 投入方法は現在と変わりません。</li> <li>3, 衛生面も、ゴミが地下に収納されるので臭い等の問題もありません。</li> </ol>	<p>パイプライン施設については、芦屋浜地域は15年、南芦屋浜地域は30年経過した時期から運用年数(芦屋浜地域は20年、南芦屋浜地域は32年)までに、順次代替収集へ変更していけるよう適切な維持管理に努めてまいります。</p> <p>代替収集方法は、パッカー車による車両収集とし、ごみの集積方法につきましては、技術革新や住宅形態等を鑑み、合理的な収集方法の検討を続けてまいります。</p>
----	--	---

- 4, ゴミを回収員が直接手に触れることなく運搬でき、安全面も確保できます。
- 5, 投入時間も現在と同じく24時間可能です。
- 6, ランニングコストは、昇降機のメンテナンス程度で、現在のパイプラインシステムと比較にならない程安く運用できます。
- 7, 現在のパッカー車で3名体制が2名で運用可能なので、人件費の削減になります。
- 8, 人員が少なくなる分、将来の若年層の人の確保に役立ちます。
- 9, 将来的には、現在のパイプライン利用地域だけでなく、芦屋市全体、また芦屋ブランドとして、日本中の都市部にも普及していくのではと考えます。
- 10, 多くの市町村で高齢化と少子化が進み、人口の減少が問題になってますが、この方式をとる事で、芦屋市の魅力を発信して、他都市からの人を呼べるのではないのでしょうか。等々、利点を書き連ねましたが、芦屋市は費用面だけを考えるのではなく、将来の芦屋市のごみビジョンとして、何が最適であるかを、今からでも真剣に考えて頂けることを期待します。「魅力のある街とは、住民自らがその魅力を発信できる街こそ、魅力のある街である」

清掃員がごみ箱の横でコントロールパネルを操作すると.....



ごみ箱が床ごとせり上がり、地下から大きなごみボックスが出現しました。



ごみボックスにはカートがついているのでそのまま清掃車まで持ち運べるというわけです。



52

①パイプラインは「多額の経費を要する」、「割高な運用経費」から廃止予定とし、条例化を図る云々の話は、視点が誤っているのではないのでしょうか。  
 パイプラインは芦屋浜、南芦屋浜地区住民にとって、なくてはならない社会資本（インフラ）です。その先端設備が整った環境の魅力から人々が集まってきている事実です。行政、議会は維持、守るべき責任があると思料いたします。

積算根拠等については、利用者の皆様にご案内いたしました廃棄物運搬用パイプライン施設検討委員会をはじめ市と利用者で構成されたゴミパイプライン協議会などで説明してまいりました。詳細については、芦屋市ホームページの「廃棄物運搬用パイプライン施設検討委員会会議録」等をご覧ください。

	<p>市は「45年間の経費比較：341億の経費」と発表していますが、何故45年なのか。何故341億円なのか、具体的費目の算定根拠について正確な説明はなされておりません。パイプラインシステムの公社竣工時での費用と、現時点での正確な具体的算定根拠の説明をお願いしたい。</p> <p>又、現在の維持費用（年間約1.9億）は、パイプライン施工後15～20年とは異なる筈。重要な社会資本を本気で維持するか否かの正確な説明をお願いするものです。</p> <p>②その上で下記要請をお願いいたします。</p> <p>1. ゴミ収集、及び搬送については現行のパイプライン方式が修復等における技術革新を積極的に取り入れ、できるだけ安価で少しでも長期間使用できるように努力するため、パイプライン先行先進国；スウェーデンでの現況（保守、管理、更新状況、その資金計画等）調査団（市担当者と議員代表）派遣と、調査報告書の公表をお願いしたい。</p> <p>2. 現在使用中のパイプラインを維持できないと判断した時は、代替案として芦屋市の基本理念である「美しい街芦屋」、「生活しやすい芦屋」というコンセプトに合致し、シーサイドの街並み・景観の低下、住民の生活水準の低下をもたらすことのない合理的なゴミ収集方式になるよう求めます。</p> <p>3. 上記2の目的を達成するために、「ゴミ収集パイプライン利用者の会」が昨年、芦屋市に提案されたパイプラインの代替案である「オートロック付き物置状収集施設」には断固反対し、シーサイドの一部自治会より提案され、ヨーロッパで広く普及している「地下ピット方式」が現段階では最も望ましい。</p> <p>4. 「地下ピット方式」についても近未来において、最善の方式とは限らないので、その時代における最新の技術革新を積極的に取り入れ、他市の模範となり、住民が誇れる高度に洗練された最終案の完成をお願いしたい。</p>	<p>代替収集方法は、パッカー車による車両収集とし、ごみの集積方法につきましては、技術革新や住宅形態等を鑑み、合理的な収集方法の検討を続けてまいります。</p>
53	<p>1 我が家の利用現状</p> <p>（1）我が家の玄関前に投入口がある。近くて便利であり、衛生的であることなどから満足している。</p> <p>（2）しかし投入口から2～3メートルのところに居室があるため夜間・早朝の投入口開閉音や遠方から捨てに来るひとのバイク音がうるさく悩まされている。</p> <p>（3）設備故障時には、カラスにより玄関前にごみが散乱し清掃に手間取ることが多い。</p> <p>2 代替設備について</p>	<p>マナー向上に向けて利用者の皆様と協働で取り組んでまいります。</p> <p>代替収集方法は、パッカー車による車両収集とし、ごみの集積方法につきましては、技術革新や住宅形態等を鑑み、合理的な収集方法の検討を続けてまいります。</p>

	<p>(1) 設備維持に過大な費用が掛かることから現設備を撤去することはやむを得ないと考える。</p> <p>(2) 代替案のうち、オートロック式ごみ集積施設には反対である。我が家の玄関前に固定的な施設をつくることは受け入れがたい。</p> <p>(3) 景観を考えると地下貯留式が好ましいと考える。</p> <p>(4) ただし、設置にあたっては現在のパイプライン投入口の場所に置くのではなく（固定的に考えるのではなく）我が家のように住居にきわめて近くに投入口がある場合は、近くの別の場所に移動することを検討して頂きたい。移動先は公園敷地、堤防、公共施設敷地側などで、例えば我が家であれば道路向かい側は灘神戸生協の駐車場であり、市が交渉すれば可能であると考えます。</p> <p>計画にあたり特に2(4)項についてご配慮いただくことを強くお願いしたい。</p>	
54	<p>現在のパイプラインの設備の輸送管、設備の老朽化は理解できますが、なぜこのような状態になるまで行政は把握が足りなく、下請けに任せてトラブルの資料も少なく2017年より利用者の会と協議を始めてからでは資料の整理ではパイプラインの問題だけでなくほかの行政もどうなっているのか心配です。パイプラインは20年、30年で廃止を決議されようとしています。現在の状況はよほど技術革新がされないと存続は難しい状況にあることは理解できます。代替え案に関して芦屋市の案はパイプラインを廃止してパッカー車で車両収集を行う。これは車両の形態が変わるかもしれませんが今後2-30年先を見てもまた、先進国、特にヨーロッパのごみ収集の現況を見てもこの方向は間違いのないと思います。現時点の案としてはオートロック式施錠機能付きごみ集積施設を考え、技術革新、住宅形態を鑑み合理的な収集方法の検討とありますが、残念ながら私は得策とは考えません。</p> <p>パイプラインの導入は最新技術を導入し、メンテナンスや設備更新費用、ゴミ、人口の増減が甘かったために起きました。オートロック式施錠機能付きごみ集積施設、要はマンション前にあるゴミの物置小屋、これは昭和の時代に建てられたマンションに設置され始めた設備で、最近ではマンションの設備更新時建て替えられたものもあるようです。また誰も最新で満足できる設備とは思っていません。現在大規模マンションの最新設備はドラム式の機械設備は主流になりつつあります。今後のごみ収集で考えが必要なことは、…収集員が直接ゴミに触れない。…ゴミを収集車に搬入するのにできるだけ合理化をする。…ゴミ収集の人手を省力化する。こ</p>	<p>代替収集方法は、パッカー車による車両収集とし、ごみの集積方法につきましても、技術革新や住宅形態等を鑑み、合理的な収集方法の検討を続けてまいります。なお、パイプライン地域以外に関するご意見につきましては本市の環境行政や廃棄物行政全般の課題と考えております。</p>

	<p>のようなことが何も考えられていない旧式の設備です。このままでは芦屋市は今度は 30 年前に戻った設備を導入して、20 年先にはなぜこんな古い考えの設備を導入したのか、と問題になるような気がします。現在大切なことは今後芦屋市として国内だけでなく海外にも国際文化都市芦屋として胸を張れるような設備導入を行い芦屋市全体がこの設備を使えるようにすることが大切と考えます。現在無電柱化、看板条例でも厳しく行政は進めようとしています。ゴミ問題についても山中市長に先頭に立って、市民も巻き込んで新しい芦屋のゴミの町づくり取り組みましょう。</p>	
55	<p>パイプラインの今後の在り方について、利用者代表と市側と時間をかけ協議を重ねて一定の方向性を出したことにある程度理解を受け入れざるを得ませんが下記の考え方もあるのではないかと意見させていただきました。ごみパイプライン施設は埋立て計画の中で利便性、コスト、環境向上など先進的な施設として導入がなされその代わりごみ焼却施設、下水処理場の環境負荷を伴う施設と合わせて設置されました。ごみ焼却施設は煤塵、臭気などは下水処理場は臭気など環境基準以下で運用されているのは当然ですが近隣に住むものは多少それらの環境負荷の中で生活しています。この地に住居していくにあたり利便性と環境負荷を鑑み選択したのです。今回の答申で市側はパイプライン利用地域以外も考慮し、収集方法としてパッカー車による収集、オートロック式ゴミ集積施設を市側で設置し、ただし今後の技術革新等を含め合理的な方法も検討していますが、他地域と同等の扱いが基本にあると思われまます。パイプライン施設のみ廃棄しごみ焼却施設、下水処理場はそのままである以上、パイプライン施設と同等かそれに近い設備であるのは当然であり、現時点では高層、中層地域はダストドラム、ダストスクリーナー施設、中層・一戸建ては地下ピット施設を市側の廃止に伴う責任として導入設置する責務があると思います。これらの設備は国際都市、美しい都市を目指している芦屋市として全市に普及していくべきだと考えます。また、これらの設備は収集に伴う機械化を推進し、収集車の削減、安全衛生面でも導入は必然であります。</p>	<p>代替収集方法は、パッカー車による車両収集とし、ごみの集積方法につきましては、技術革新や住宅形態等を鑑み、合理的な収集方法の検討を続けてまいります。なお、パイプライン地域以外に関するご意見につきましては本市の環境行政や廃棄物行政全般の課題と考えております。</p>
56	<p>地下貯留式ごみ集積施設への移行をぜひお願いいたします。カラス、ネコによるゴミの散乱は町内の美観を損ないまた不衛生です。美しい町は美しい芦屋市となります。</p>	<p>代替収集方法は、パッカー車による車両収集とし、ごみの集積方法につきましては、技術革新や住宅形態等を鑑み、合理的な収集方法の検討を続けてまいります。</p>
57	<p>世界の注目を浴びて行われたコンペにより選ばれ、将来を見通したまちづくりとされたシーサイドタウン。無公害の下水とゴミ処理とうたわれて新しい街づくりの一つのシンボルであるパ</p>	<p>利用者の皆様との協議の中でパイプライン導入の経緯・経過についても話し合い、またそれを前提としてこのたびのパイプライン施設の今</p>

	<p>イブラインをどうするかというテーマを論じるときには、この街の成り立ちからしっかりと論じることが必要ではないでしょうか。今回の提案は、その意味で不満足です。現時点での費用対効果だけで論じてはいけなないと考えます。パイプラインにあこがれて一生で一番大きな住宅という買い物をして住み着いた方も多いのではないでしょうか。そういった方々の思いをしっかりと汲んだ解決策にさせていただきたいと思います。なにか存続を求める声が悪者であるかのような扱いをするのではなく、歴史的な評価をしっかりとしたうえで解決策を考えてほしいと思います。この間のシーサイド住民の方たちとの話し合いや、今回のパブリックコメントに出された意見をしっかりと反映した方針が出されることを望みます。</p>	<p>後のあり方についてともに作り上げました。今後も諸課題について利用者の皆様と協働して取り組んでまいります。</p>
58	<p>私達の南浜町一街区は平成 16 年入居が開始されました。転入の動機としては、景観・環境、将来の教育施設用地の確保などに加え、パイプライン施設による廃棄物処理の利便性が大きな魅力であったことは全ての転入者が認めており、県外、市外から多くの人口を招く要因となった事実を無視すべきではありません。しかしながら、平成 26 年度の「集会所トーク」で山中市長からパイプライン施設のあり方について第三者委員会で検討する旨発表があり、委員会での検討が実施されました。委員会の議事録によりますと、市の方針は今後 45 年間に必要となる費用を提示し、費用面、環境面、公平性の観点から廃止案数例を有識者に示し意見を求めるというものでした。</p> <p>この市の考え方に対し、パイプライン設備のある南芦屋浜の自治組織も「パイプライン利用者の会」に参加して今後の費用、コストダウン、環境改善、各種改善活動を行政と共に推進してきました。今回の「パイプライン施設の今後について」の資料も利用者の会と行政で纏めたものです。今後とも、代替案が具体化される 32 年後まで活動を継続する計画です。</p> <p>上記状況を踏まえ市の行政と議会に是非お願いしたいことは下記事項です。</p> <p>1、「公平性」を問題視されているが「公平性」とは何でしょうか？パイプライン維持費用だけに焦点をあてて評価するのではなく、これらの施設への投資が芦屋市の人口増・税収増に寄与してきた点も評価すべきです。一方、芦屋がこれまで築き上げてきた「住みよい町」というブランドは先輩の方々が尽力されてきた結果だと思えます。その付加価値を評価するひとつの指標として「固定資産税路線価」があります。行政にとっては税収の判断基準、住民にとっては自己資産価値判断基準になります。路線価は 3 年毎に見直しされますが、南芦屋浜供用開始以降、ずっと下げ基調です。インフラがしっかり整い、住民がその中で活性化すれば「住みよ</p>	<p>インフラへの投資は検討すべきものと認識しておりますが、パイプライン施設については、輸送管等の老朽化が深刻であり改修等に多額の経費がかかることから施設を運用し続けることは困難と考え、施設の運用年数を定め、大規模改修や施設更新などは行わず、補修等で運用し、運用経費についてもさらなる経費節減に努めることとしました。</p> <p>なお、パイプライン地域には、試行的に環境への取り組みを検討してまいります。</p> <p>インフラをはじめとする市内公共施設の維持管理等は、本市の公共施設等総合管理計画に基づき、進めてまいります。パイプライン施設については、今後も引き続き設備保全・改善に努めてまいります。</p> <p>大雨時のリスク回避のためのブロー運転抑制を行うなどの工夫をし、災害時に備えてまいります。</p> <p>今後についてのご意見の趣旨を念頭に、今後も取り組んでまいります。</p>



い町」ということで、今後の人口対策にも繋がり路線価下げ基調にはならないと思います。この様な観点からインフラ問題に関しては、多方面からの検討をお願いします。

2 今後の費用計画の見直し、コストダウン、環境改善、各種改善推進は民間で経験豊富な技術者などの援助があって初めて達成できたものであり、今後もその改善努力は続けなければなりません。インフラの老朽化、維持管理が各地で問題視されている中で、設備などの維持管理、設備保全は最重要課題であり、自然災害に備えることも重要であります。さらに、現状の水道管施設にも大きな疑問があります。公共施設やプラントなどの建設に実務経験のない大学教授、弁護士などで構成されるパイプライン第三者委員会にも疑問を抱かざるを得ません。メンバーとして企画当初から実務経験豊富な専門技術者が参加していれば現状よりは一層良い改善の推進が出来ていたはずです。環境施設課は限られた人数でよく頑張ってくださいっております。しかし、民間の手法とは異なる役所仕様の組織、進め方の環境にあり、今後とも設備保全・各種改善のご検討を進めて頂きたい余地があります。

#### 3 豪雨によるパイプライン長期停止再発の件

昨年、1か月停止して輸送管穴あき発見するも、その処置が遅れたため今回は昨年以上の大損害となっております。是非、早急な修理をお願いしたい。勿論、利用者の会では今後必要になるであろう費用を度外視して修理の要求しているわけではありません。行政の手続は複雑を極め、もしこれが民間での処理事案であれば昨年ほどの被害には、すぐに修理計画をたてて実行に移しております。民間の感覚からみれば豪雨被害の再発は全く無駄な支出であり、一生懸命、コストダウン推進している努力を裏切ることとなります。今後は企画策定の時点から行政手続きの能率化・効率化のご努力をお願いしたい。我々も費用管理の難しさを理解し可能な限り協力して参りたいと思っております。いずれにせよ今一番重要なことは次の豪雨来襲への備えを早急に実施することだと思えます。

#### 4 今後について

今回は行政と利用者の会が一体化して協議会、ワーキング会などで協働してきたことは芦屋市にとって非常に良い歴史を作ったことだと思っております。住民も一生懸命に頑張ってもらいました。議会にも芦屋浜南芦屋浜まちづくり調査特別委員会があり、今後ともパイプラインについて議論されることと思えます。

今後の条例化に際し、疑問点などは是非、利用者の会協議会にご出席のうえご質問いただければ幸いです。また、協議会、利用者の会の今後の活動にも是非ご理解とご協力をお願いしたい

	<p>と思います。32年後まで代替案検討の推進は当然のことながら行政、議会共に途中で利用者の会と議論することなく方針転換することが無いように重ねてお願い申し上げます。</p>	
59	<p>パイプラインは昭和 54 年導入当時将来ゴミが増え、利用者の数も増え人件費が上昇するので既存の収集方法より便利で安くなるので国の推進政策でもあり導入をしたが、維持管理、修繕設備の更新などの重要な計算ができていなかった詰めが甘かった。芦屋市として公社から設備譲渡を受けて運営をしていますパイプラインの利用者が導入当時、導入費用は一部負担をして（購入時に土地価格に上乘せして購入）使用をしてきました（国の補助金があったわけですが）。現在急に廃止の方向へ進んでいます、芦屋市としてはこれは失敗した政策であることは間違いありません。このために税金の無駄遣いとなり、住民にも永遠に使用できるものとして考えていたのに廃止とは寝耳に水の話です。また南芦屋浜地域は一部だけ平成 10 年から導入され現在に至っています。購入してから 10 年もたらずして廃止宣言とは。。。インフラについて 40-60 年で廃止とはいかがなものかと思います。</p> <p>芦屋市としては”多額の費用が設備改修、更新にかかり割高な運用になっています”との説明はたびたび聞いていますが、失敗の原因、なぜこのようになったのか、今後同じ間違いをしないためにどうすべきか。芦屋市として反省をすべきと思います。また、市長をはじめ誰がどのように責任を取るのでしょうか。しかし、芦屋市の関係者、市議会でこの失敗に関して話し合いは行われているのでしょうか。私は今後芦屋市の行政として二度と間違わないためにも問題点を精査して行政が反省し、市民にも内容を公表して、文書化し、関係各部で同じ間違いを起ささないようにすることが重要と考えます。</p>	<p>公共施設等は、社会情勢の変化に伴い、そのあり方の検討や見直しを図らなければなりません。パイプライン施設も同様であり、このたび、経費の面等から運用し続けることは困難と判断し、施設の運用年数を定めることとしました。市議会には市から説明を行い、意見をいただきながら、また、利用者の皆様と協働で取り組み、その内容は市ホームページで公表しているところです。</p>
60	<p>ごみ収集パイプライン施設の廃止議論の理由として、維持管理費用が高いことが挙げられているが、芦屋市職員と維持管理委託企業の努力不足ではないか。住民からの提案でやっと電力入札を行うようになり、昨年度から 10%近いコストダウンを行っているが、自らの発想でコストダウンする気概が見られない。</p> <p>他の自治体で半額に近い単価で運用している事例があるので、もっとコストダウンできるはずである。市職員と話をしていると、前年度と同じことをしていれば良いという消極的な考え方、維持管理を合理化する新しい技術や方法は失敗したら怖いから採用しないという萎縮した考え方が随所に感じられる。適切な維持管理を、従来とは異なる視点も加えて行い、大幅な費用低減に向かって努力して欲しい。</p>	<p>維持管理費用を削減するため、市、利用者の皆様、維持管理業者が様々な視点で協議し、適切な維持管理を行ってまいります。</p>

61	<p>供用年代が異なる芦屋浜地区と南芦屋浜地区では維持管理費用が大幅に異なっていると思う。建設時期の差異で南芦屋浜地区の施設は安価に運用されているはずである。地区別の運用費用公開を求める。</p> <p>南芦屋浜では過去 20 年間の稼働実績を踏まえて基本設計が改善され、個々の技術が改善されて合理的に建設されている。</p> <p>この差をしっかりと検証し、対策を取れば、芦屋浜地区の維持管理費用が大幅低下し、南芦屋浜地区と合わせたトータルの維持管理費用も安価になるはずである。このような努力、発想をしないで費用が高い高いというのは余りに無責任ではないか。</p>	<p>芦屋浜地区の現在の状況を勘案すると、南芦屋浜地区の運用方法で維持管理することは困難です。</p>
62	<p>維持管理費削減のため、協議会で住民側から送風機 1 台運転を提案しているが、まったく検討される様子が無い。漫然と送風機 2 台運転を行い、コストについては全く無頓着である。住民側から送風機 1 台運転を実施する為の調査方法や検証手順なども提案しているが、ゼロ回答である。これは一例であるが、芦屋市職員や維持管理委託企業がコスト削減の努力をしないまま、費用が高い高いと言うことは間違っている。管理体制や契約方法など抜本的に見直す必要があるのではないか。</p>	<p>送風機の運転方法に関してはかねてより利用者の皆様と協議をしているところです。</p>
63	<p>ごみ収集パイプライン施設の廃止議論の理由として、施設の老朽化が激しいことが挙げられているが、芦屋市職員の努力不足と言える。</p> <p>施設の老朽化が激しいことについては、今までの維持管理が後手に回っていることが考えられる。現状把握が出来ていない上に、問題が発見されたときの対処が遅いため被害が拡大し、補修費用が増大している。固定観念に捉われた考えをやめ、選択と集中の考え方に立って、弾力的に効率的に補修工事を行い、トータルとしてコストダウンになるよう工夫して欲しい。そして少しでも長い期間運用できるよう努力して欲しい。</p>	<p>維持管理費用を削減し、運用年数まで使用できるよう、適切な維持管理を行ってまいります。</p>
64	<p>ごみ焼却施設は一般的に建設後 15 年～20 年経過したころに大規模改修工事を行い、最新技術の採用による設備改良も加え、トータルコストの削減と運転の適正化を図っている。今のパイプライン施設の維持管理にはこの考え方が完全に欠落している。現在の国の方針は各種処理施設を大事なストックとして考え、適正に補修してできるだけ長持ちをさせ、ライフサイクルコストをミニマムにするということである。その都度その都度補修するよりも問題のある部分は一気に補修したほうがトータルとして安く済むという考え方であり、新たな施設を作るよりも安くなるという考え方である。この考え方が今後のパイプライン施設の維持管理に応用でき</p>	<p>維持管理費用を削減するため、市、利用者の皆様、維持管理業者が様々な視点で協議し、適切な維持管理を行ってまいります。</p>

65	<p>ないものか。</p> <p>私は 1984 年から芦屋市に住んでいます。廃棄物運搬用パイプラインは 1979 年から運用されました。いろいろと話は聞いていたのですが、その実態について知ったのは今回が初めてです。下記のような諸点を考慮して進めていけば、と思います。</p> <p>今回の問題を私が関わってきたメーカーでの品質不良と同様に考えますと、二つの軸?@と?A、?@発生原因と流出原因、?A ハード（設備・装置）の問題とソフト（情報伝達等）の?@×?A の 4 つの視点で整理すると課題が明らかになるとと思います。</p> <p>1. 元々、なぜパイプラインを選んだのか、を明らかにしてください。</p> <p>導入当時、それなりの長所・短所を整理されていたはずですが、それが、現時点で見ればどうなっているのか、を検証してください。例えば、なぜ当初見込みよりコスト高になってしまっているのか、等々。</p> <p>2. 上記 1. について、ハード面とソフト面で検討してください。</p> <p>ハード面では、設備が当初仕様を満足していないのか、仕様を満足しているのだが、廃棄物の種類が当初予想と違っていたのか、等々。ソフト面では、問題となる情報は導入当時にもあったが、我々が知らなかったのか、その情報入手の努力をしなかったのか、等々。それらはこれからの、将来の施策への対策になります。</p> <p>3. パイプラインの問題は現在進行形であるので、それが問題なく進める必要があります。そのための、ハード面（予防保全等の補修など）とソフト面（適正な使用方法の周知、使用する住民との合意の取り付け等）が必要です。</p> <p>4. メーカーの場合でしたら上意下達でも進めることは可能ですが、芦屋市という行政では、主権者でもあるパイプラインに関係する住民の合意を何よりも大切と思います。その点で、関係住民との協議会を開催して進めていることは好ましく評価できます。是非、住民の納得を得ながら進めていって欲しいと思います。</p> <p>アンケート結果を見ますと、関係住民とそれ以外の市民とでは意識の違いが顕著です。が、実際にパイプラインを使用している関係住民の意見を主とすることが重要です。</p> <p>上記の 1～4 の点が明らかになり、協議会等で議論すれば落ち着くべきところに結論がなると思います。このパイプラインの問題が文字通りの住民自治（と行政の協力）によって解決していくことを願っています。</p>	<p>パイプライン施設の導入理由は、当時の社会情勢である高度経済成長における大量消費や人口増加とそれに伴うごみ量の増高や人件費の上昇を背景に、ごみ収集車と比較してごみ処理のコストの縮減が見込まれたためでしたが、その後、ごみの減量や分別などの社会情勢の変化等により、パイプラインで処理されるごみ量が減少し、現状は、パッカー車による車両収集と比較して維持経費が割高な状態になっています。運用年数まで使用できるよう、利用者の皆様と協働で取組み、適切な維持管理を行ってまいります。利用者の皆様の納得が得られるように丁寧に進めてまいります。</p>
----	--	---

66	<p>一市民としては使用しやすい。ただ、環境のために分別処理が進んでいく中何を出しているのかがわからないのは改善していかなければいけないと思う。プラスチックの回収日をきちんと決めたほうがいい。</p>	<p>マナー向上に向けて利用者の皆様と協働で取り組んでまいります。またプラスチックの分別については今後検討してまいります。</p>
67	<p>私は浜風町に住んで以来約 35 年間ダスターシュートに面した家に住んでおります。開閉時の突然の騒音、漂う悪臭、不当に置かれたゴミ等悩まされることも多いのですが、衛生的な町を維持してくれるパイプラインをできるだけ長く活用できます様提案いたします。</p> <p>1, パイプラインの利用法の配布物をもれなく全ての住民に徹底して配布して頂きたい。サブセンター、旧雇用促進事業団の社宅の方々にも配布をお願いします。</p> <p>2, 利用時間を短縮するとコスト削減になるのではないのでしょうか。毎週日曜日を運休に。以前実験的にされましたが、大きな問題はなかったようです。午前6時～午後10時に短縮する。早朝、深夜の利用者は犬の散歩時のフンの投入がほとんどです。</p> <p>3, 不当な投入物を現在の様にダスターシュートに貼って警告する。静かに開閉することも表記をお願いします。</p> <p>4, パイプラインにトラブルが発生したときいかに大変な作業をされているかを広報で取り上げて頂きたい。正当な利用をしないとパイプラインが使えなくなることを利用者にも危機感を認識させできるだけ長く利用できるようにしてほしいと思います。</p>	<p>マナー向上や維持管理費の削減に向けて利用者の皆様と協働で取り組んでまいります。</p>
68	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゴミ処理の難問に正面から取り組んだ往年の行政の先輩の熱意と誇りを忘れずに”電気自動車ゴミ収集”などお茶を濁さないでください。</li> <li>・都市ゴミと同時に景観都市の恥とも申せる地上電柱の撤廃を同時解決する「共同溝化」に次の「100年の計」ビジョン実現に取り組んでください。大阪では、梅田⇄心斎橋ナンバ間の「共同溝」工事に着手しました。</li> </ul>	<p>パイプライン施設の導入理由は、当時の社会情勢である高度経済成長における大量消費や人口増加とそれに伴うごみ量の増高や人件費の上昇を背景に、ごみ収集車と比較してごみ処理のコストの縮減が見込まれたためでしたが、その後、ごみの減量や分別などの社会情勢の変化等により、パイプラインで処理されるごみ量が減少し、現状は、ごみ収集車と比較して維持経費が割高な状態になっています。そのため、共同溝化という新たな手法によっても新たなパイプライン施設を敷設する予定はございません。</p>
69	<p>9月13日神戸市垂水区でごみ収集作業員が収集車に巻き込まれて死亡するという痛ましい事故が発生しました。この事故は神戸新聞他で報道されましたが、この他にも収集車に巻き込まれて重傷を負う事故は多数発生しています。あまり報道されないため、多くの人々には知られていません。この記事を見て、皆さんは稀な事故と思われたでしょうが、このような事故</p>	<p>収集作業員の安全確保については今後とも留意してまいります。</p>

は決して稀な事例ではないのです。パイプラインの代替案を検討するに当たっては、このような痛ましい事故が防止できるような案を検討して頂きたいと思います。現状では、収集員が手でごみ袋を収集車に投入する方法が一般的ですが、手で投入しない方法、技術も近年多数採用されるようになっていきます。収集員の安全確保も代替案検討の条件に加えて頂き、市も住民も収集員もみんなが納得する代替案にして頂きたいと思います。